
伯父さんの冬の話

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伯父さんの冬の話

【コード】

N3155M

【作者名】

ゆう

【あらすじ】

一年ぶりに伯父は甥の家を訪れます。

伯父は甥に何か話をしてほしいと言い、伯父は二年前の話を始めました。

(前書き)

初めまして。ゆうとといいます。

経験が浅いので文体は拙いですが、よろしく願いします。

おじやましませう。やあやあ久しぶりだね。元気だった？
こうして一年ぶりに甥の君に会えたからね、伯父さんは嬉しいよ。
え？ 何か話をしてほしいって？ 昔のことでいいなら話すよ。

二年前の冬だったかな。

あれだけ空気は冷たくて肌に刺さってホントに痛いし
外では雪が降って積もっていたし、たまに除雪車も見かけた時期だ
から間違いない冬だよ。

そんな時期だったから、外も家の中も寒いんだよね。
まあストーブを焚くなりなんなりして暖かくすればいいんだけどさ。
そんなことをしても気休めにしかない日だってあるわけだよ。
ストーブを朝の三時から焚くようにタイマーをセットしていようが
どれだけこたつの中に入ってみかんを食べていようが
手を打ち尽くしても寒すぎる日があるんだな。

3

そういう日って嫌だと思わない？

さらにそういう日に限って目覚まし時計の設定をミスって
いつもより早く起きてしまったとしたら？

そりやもう、誰もが口をそろえて最悪だって言うだろうね。

そんな最悪なシチュエーションをね、二年前の冬に体験したわけよ。

大体六時か七時くらいに外が明るくなるんだよね。

で、目覚まし止めて起きたのが五時だったんだよ。

まあ寒いから毛布にくるまって動かずにじっとしてるわけよ。

それこそリンチに遭ってる人のように、頭を抱えて小さくなって動
かずに耐えてたんだな。

そんなことしても寒いままなんだよな。

でさ、この時に外に出てみようかなって思いついたのよ。
なんでって言われても、どうせ寒いんだしどこにいても同じだと思
ったからだよ。

そんでさ、外出する時の服装に着替えて、適当に散歩したわけよ。
まだ日は昇っていないから外は暗いんだよ。街灯もまだ点いていた
っけな。

歩道の上は歩けなかった。除雪車とかのせいで
道路にある雪のほとんどが歩道に吐き続けられるのよ。

そこで近隣住民の爺さんとかが必死こいて除雪作業を頑張るわけ。
防寒具を身につけてさ、両手に重そうなシャベルを持って、適当な
ところに雪をどかす。

まあそんなことしても次の日には除雪車が歩道に雪を持ってきて
爺さんたちが雪をどかす。冬が終わるまでこの無限ループよ。

話がそれちまった。

雪の積もってる歩道を歩きたくないったら、車道しかないだろ？
この時は早朝で、車の通りは全くなかったわけだから……
でもなあ、アイスバーンって知ってるか？

スケートリンクがあるだろ。最近じゃフィギュアスケートが人気じ
ゃん？

会場が駄目になったら道路で演技すればいいと思うのよ。ごめん、
やっぱねーわ。

けどな、馬鹿みたいに大きなこと言っただけど実際問題それで事故
とか起きてるわけな。

もちろんアイスバーンのせいで車がスリップして事故るわけよ。
アイスバーンにも種類があつてな、ブラックアイスバーンとかいう
奴があるわけ。

外見上はいつもの道路だけど、実はアイスバーン道路でしたってオ

子。

やっぱりそれで事故るケースも多いんだよ。車を運転する時は気をつけるよって話だ。

ってそんな話じゃなかった。悪い悪い、もうすぐ終わるから。

んでな、結局車道を選んで歩いて行ってさ、近くに川があるからそこに行ったのよ。

案の定凍りついてやがってさ。「冗談抜きでフィギュアスケート会場に

指定してやりてえって思うくらいに凍りつき具合が半端ないんだよな。

で、凍りついた川も見たし帰るかって思った時によ、急に周りが明るくなったのよ。

なんだあって思ってさ、振り返ったら朝日が昇っていた。言葉が出なかった。空気が寒いせいでき、なんかこう、太陽がいい感じにさ。

何を言いてえか自分でも分からなくなったけどさ、いい思い出でしたって話。

失敗から得られることもあるよねって話だよ。

（後書き）

最後まで読んで下さった方へ、ありがとうございます。

読んで下さる方が楽しめるものを書けるようになりたいと思っています。

ご意見やご感想等、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3155m/>

伯父さんの冬の話

2010年10月14日13時06分発行